

第25回 青少年意見発表大会

青少年委員長 L忠海健三

2021年2月14日 午前9時30分から、札幌サンプラザにおいて当クラブが主催する「第25回青少年意見発表会」を開催いたしました。思い起こせば、昨年のこの大会を最後にこの1年間主だったアクティビティ・例会・理事会等、ほとんどが、新型コロナウイルスの蔓延により開催が見送られ、中でも6月に予定していた「CN25周年記念式典」は、5年がかりで準備してきたことも、中止になりました。

又、高文連の大会もほとんどが開催されず、弁論部の弁士たちも発表の場がなくなっている中、「是非弁士たちに発表の場を提供しよう」との熱い気持ちで、どのようにすれば開催出来るかを見つけ出すために、昨年11月、北海学園札幌高校の校長室で打合せして以降、大西校長、立命館慶祥高の内山先生、札幌サンプラザ井谷支配人と、何度も打合せやメールのやり取りで、開催に向けた条件を満たすために努力を重ねてきました。11月時点での新型コロナ感染状況は、北海道内第3波が蔓延中で、会場の札幌サンプラザの宴会場のほとんどは札幌保健所に貸し出し、さらには、飲食を伴う宴会は開催できないとの連絡を受けておりました。

北海道知事の公式の声明では、北海道内の新規感染者が人口10万にあたり25人を超えれば、緊急事態宣言を発令し、そうなれば会場の貸し出しはできないと通告も受けておりました。

そんな中で1月の初めには、人口10万にあたり22人まで達し、毎日感染者の数を祈るような気持ちで見えていましたが、何とか踏みとどまり、今回の開催につながったことについては、工藤会長や高文連の先生たちの熱い気持ちを感じました。

具体的な感染症対策については、

- 1.すべての参加者に14日間の体温測定を含む健康管理チェックシートの提出。
- 2.当日受付においてでの体温の測定、アルコール消毒の徹底。
- 3.会場のレイアウトで1.5メートル間隔で席を作り、密の状態を作らない。
- 4.演台とマイクの都度の消毒・交換
- 5.演台の前にアクリル板を設置し、弁士の交代のたびに交換し消毒殺菌する。
- 6.出席者をぎりぎりまで少なくし、弁論の内容はオンラインで配信した。
- 7.会場入口の扉を開放状態で空気の循環に務めた。

そんな中で、当日出場予定の弁士が1名、前日に37.2℃の発熱があり、大事をとって出場を取りやめた事を除いては、9名の弁士が堂々と発表してくれました。自分の考えをしっかりと言葉に表し、聴衆の前で堂々と発表したことは、間違えなく今後の成長につながることに感じています。

北海道新聞様には、編集委員の斉藤佳典様が審査委員長をお引き受けいただき、最優秀賞の盾を寄贈いただき、さらには、山村麻衣子記者が、取材に来られて2月16日の朝刊に記事と写真を記載いただきましたことには、本当にありがたく感謝申し上げます。

又、今回はライオンズクラブ国際財団の助成事業を受けることができましたことには、キャビネットの諏訪ガバナー、LCIF キャンペーン 100 コーディネーターL岡山には、改めて御礼を申し上げます。後援していただいた札幌市、札幌市教育委員会、北海道新聞社、北海道高文連石狩支部弁論専門部様には重ねて感謝を申し上げ、報告に代えさせていただきます。

2月14日 サンプラザ正面立て看板



発表順を決める抽選会



開会式司会 青少年委員会副委員長 L 浅水



L 工藤会長挨拶 挨拶は会長・ガバナー共にマスク



オンライン配信を担った渡辺さんとアシスタント



来賓 L 諏訪ガバナー・L 小野地 ZC と CP100 の L 岡山



L 諏訪ガバナー 来賓挨拶



審査委員紹介 喜多見先生（現在日大高校在職）



審査委員紹介



審査委員紹介



立命館慶祥高校弁論研究部 木戸さんの司会で開会



クラブからの審査委員はL山田にお願いしました



基準弁論の坂本さん





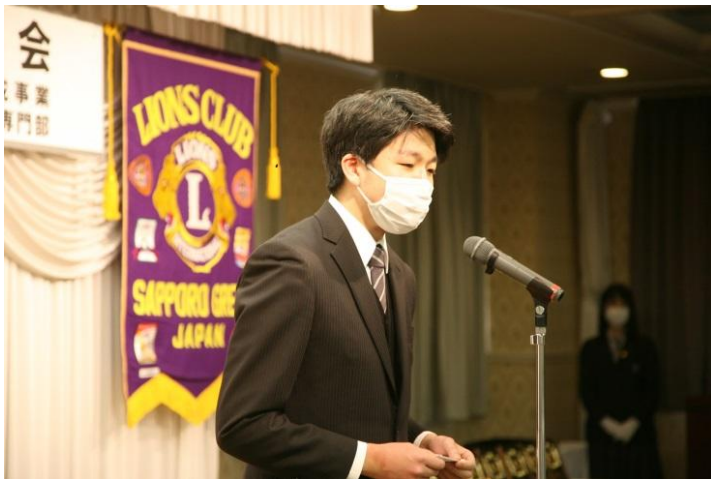
道新 斉藤編集委員からの講評



内山先生から成績発表



斉藤審査委員長から道新賞の表彰を受ける後藤さん



最優秀賞と25回目で5万円の旅行券目録お渡ししました

優秀賞寺田君





道新記者から取材を受ける L 忠海実行委員長

生徒達から大会開催に対するお礼 (L 忠海と L 工藤)



忠海実行委員長 閉会の挨拶

高文連先生方を囲んで (真ん中が喜多見先生・大西校長)





以上 L 高野が撮影

2月16日道新朝刊に掲載

15
地域の話

2021年(令和3年)2月16日(火曜日)

北海道新聞

偏見なくせ 高校生熱弁

札幌で青少年意見発表大会

第25回青少年意見発表大会(札幌グリーンライオンズクラブ主催、北海道新聞社など後援)が14日、札幌市内のホテルで開かれ、石狩管内の高校弁論部の部員9人が、精神疾患に対する偏見をなくすことや、廃棄されたスマートフォンなどの「電子ごみ」などを演題にそれぞれ思いを語った。

新型コロナウイルス感染予防のため、発表台の前に透明な板を置くなどの対策を取って実施。出場者は制限時間の6〜7分で、表現などを競った。

最優秀賞となった札幌第一高2年の後藤友里哉さんは、国内では、精神疾患が仕事や勉強など目の前のことから逃げたなどと偏見を持たれる場合がある一方、海外では「風邪のように誰もがなりうる」と理解されている状況を紹介。「逃げ道

を肯定できる世の中に変えてみませんか」と訴えた。(山村麻衣子)

最優秀以外の賞は次の通り。(敬称略)

- ▽優秀賞 寺田萩(北海学園札幌)▽優良賞 坂本安侑子(北海学園札幌) 塚本那奈(札幌龍谷学園) 村井優斗(立命館慶祥)▽特別賞 秋元大世(立命館慶祥)



最優秀賞に輝いた後藤友里哉さん



札幌グリーンライオンズクラブ
〒064-0804
札幌市中央区南4条西3丁目北星ビル5F
TEL 011)221-0331 FAX 011)221-3789
<http://www.sapporogreen-b.jp/>

青少年意見発表大会

25th

日 時 令和3年2月14日(日) 午前9時30分開場
会 場 ホテル札幌サンプラザ
主 催 札幌グリーンライオンズクラブ (ライオンズクラブ国際財団 助成事業)
後 援 札幌市 札幌市教育委員会 北海道新聞社 北海道高文連石狩支部弁論専門部

大会次第

高校生発表者

1. 主催者挨拶

全体進行：実行委員 L 浅水 正

札幌グリーンライオンズクラブ

会 長 L 工藤 修

2. 来賓挨拶

ライオンズクラブ国際協会331-A地区

地区ガバナー L 諏訪 昇三

3. 審査委員紹介

4. 審査規定説明

5. 意見発表

司会・進行 立命館慶祥高等学校 弁論研究部

木戸 花音(3年)

基準弁論 坂本 真望(立命館慶祥中学校1年)

発表者 10名

※出場者全員による記念撮影を行います

6. 講評・表彰

1) 審査委員長講評

北海道新聞社編集局編集委員 斉藤 佳典

2) 成績発表

高文連石狩支部弁論専門部代表専門委員 内山 関人

3) 表彰

会 長 L 工藤 修

7. 閉会の挨拶

実行委員長 L 忠海 健三

番号	発表順	演 題	学 校 名	学年	発表者
基準		たった1ドルの勇氣	立命館慶祥中学校	1年	坂本 真望
1		メッセージ	北海学園札幌高等学校	2年	坂本 安侑子
2		「キキ」の時代に追える「キキ」	北海学園札幌高等学校	2年	寺田 萩
3		自分を好きになる	札幌大谷高等学校	1年	横山 菜奈
4		少数派	札幌第一高等学校	2年	藤島 桃
5		逃げてもいい	札幌第一高等学校	2年	後藤 友里奈
6		ベッ・カイエ	札幌龍谷学園高等学校	2年	加藤 樹音
7		私たち自身のために	札幌龍谷学園高等学校	2年	塚本 那奈
8		弟はトイブードル	札幌日本大学高等学校	2年	伊勢谷 穂音
9		ただ一人の人間として	立命館慶祥高等学校	1年	村井 優斗
10		守りたいもの	立命館慶祥高等学校	1年	秋元 大世

審査委員長	北海道新聞社編集委員	斉藤 佳典
委員	札幌日本大学高校教諭	喜多見 彰彦
	北海学園札幌高校教諭	小林 真史
	札幌平岸高校教諭	松山 美彦
	札幌大谷高校教諭	大西 有紗
	札幌龍谷学園高校教諭	小野 公子
	札幌グリーンライオンズクラブ	山田 一男